

2014年 東京外大 解答速報

2014年2月25日施行

1 長文論述問題

1. 〈解答例1〉 いかなる食料を、どの程度忍耐強く、どの程度危険を冒して獲得すべきか、という決断。(40字)
〈解答例2〉 待つことやリスクを冒すことで、より望ましい食べものを手に入れるかどうかの決断。(39字)
2. 〈解答例1〉 賭けに負けた時の後悔の感情が強い人は、負けた苦痛をそれほど感じない人よりも賭けをする決断を下す傾向が小さい、ということ。(60字)
〈解答例2〉 負けたら大きな後悔を感じると自覚する人が、それほど強烈には痛みを感じない人に比べて、ギャンブルをしない傾向にあること。(59字)
3. (a) 〈解答例1〉 両者ともに、少量の食料を即座に得るよりも、より多くを得るためにしばらく待つことを選んだ場合の方が多く、また、待つ間に不安や怒りなどの感情を示す行動をとった。(78字)
〈解答例2〉 すぐにわずかな収穫を得るより、三倍の大きさの収穫を得るために、待つことを選ぶ場合が多いこと、また、待っている間に不安や怒りを示す否定的な感情的行動を見せること。(80字)
(b) 〈解答例1〉 ボノボより、チンパンジーの方が待つことを選ぶ場合が10%程度多く、より忍耐強かったが、待つ間に叫び声やうめき声などを出してじれったさを表すこともずっと多かった。(80字)
〈解答例2〉 チンパンジーはボノボに比べてより大きな忍耐力を示すこと、また、大きな収穫を待っている間のいらだちの感情を示す行動において、チンパンジーの方がよく声を出すこと。(79字)
4. 〈解答例1〉 目に見えている好きでも嫌いでもない食べ物と、隠されていて好物か嫌いなものかが不明な食べ物のどちらかを選ばせる実験で、チンパンジーの方がボノボより後者を選択する割合が高かった、という結果から判明した。(99字)
〈解答例2〉 まずまずの食べ物が入っていることが見えるボウルと、大好きな食べ物か最もそうでないもののいずれが入っているのか見えないボウルの選択実験で、チンパンジーの方が中身の分からぬボウルをより多く選んだこと。(99字)
5. 〈解答例1〉 野生のチンパンジーの食料は季節限定で見つけ難く、ボノボはより容易に食料採集するという生息環境の違い。(50字)
〈解答例2〉 チンパンジーに比べてボノボの方が食べ物を手に入れやすい自然環境で生きているから。(40字)

6. 〈解答例 1〉 望まない結果の直後に選択を変更しようと最も躍起になるボノボは、そもそも危険を冒す傾向も最も少ないという発見。これは、賭け事の負けを最も後悔する人間は危険を冒すことも少ないという人間の場合と似ている。(99字)

〈解答例 2〉 自分の選択による望ましくない結果がもたらす、否定的感情が大きいボノボが、リスクを冒そうとしない傾向を持つという発見を指し、ギャンブルの損失を悔しがる者ほどリスクを冒さないという人間の傾向と似ている。(99字)

2 長文空所(単語)補充(語形変化あり)

- | | | | | |
|--------------|------------|-------------|------------|-------------|
| ① consisting | ② acquired | ③ directing | ④ identify | ⑤ described |
| ⑥ renewed | ⑦ entered | ⑧ express | ⑨ lacked | ⑩ appears |

3 長文空所(欠文)補充

- | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| ①カ | ②ア | ③キ | ④ウ | ⑤ケ | ⑥イ | ⑦ケ | ⑧オ |
|----|----|----|----|----|----|----|----|

4 リスニング:省略

5 リスニング:省略

6 リスニング+英作文:省略

《講評》

全体として、昨年度の出題傾向から大きく変わったところはありません。読解部分では、大設問[1]が、内容説明問題中心の非常に長い長文読解、[2]は、一つの語群から多くの空所を補充する問題、[3]は、文(または節)単位の空所を、これまた一つの選択肢群から選んで埋める問題です。

[1]の内容説明問題は、必ずしも比較的狭い文脈の範囲に解答の根拠があるとは限らず、広範囲の論旨を正確に把握する必要もあるので、昨年よりやや難しくなっていると言えます。[2]の空所補充では、語群の単語そのものではなく「ふさわしい形に変えて」書くという指定があるので、文法的に正確な判断も要求されています。[3]の欠文補充では、2, 3 微妙な選択肢があり、正確な文脈把握を要します。

昨年初めて出題されたリスニングと英作文の融合問題が今年度も出されました。一昨年まで、作文の問題は、日本語の評論文的文章を読み、その要約とそれに関する意見陳述を英語で書くよう求めるものでしたが、昨年度から、日本語を題材とせず、英語による講義が題材となっている点が異なります。二年連続で同形式となっているため、しばらくこの形式が続く可能性が高いでしょう。

トフルゼミナール